

## ウェブサイト学校説明会 部長挨拶

青山学院初等部 部長 小野 裕司

### ○建学の精神 二人の建学者・建学者の精神

青山学院の建学の精神は、「キリスト教信仰にもとづく教育をする」です。どの私立学校も、建学の精神を大切に守っています。本学も同じで、この建学の精神は大切に守られてきました。さらに、本学では、キリスト教信仰にもとづく教育は、「永久に、行わなければならない」「いかなる場合にも変更することができない」と、今後もずっと守っていくことが決められています。

私たち青山学院初等部の教員は、この建学の精神を守り、キリスト教信仰を教育の基にして、日々子どもたちと向き合っています。

この建学の精神とは別に、本校には、二人の建学者の精神が流れていると思っています。二人の建学者、一人は、青山学院の最も古い源流の学校、女子小学校を創ったドーラ・スカーンメーカー先生。もう一人は、本校、青山学院初等部の前身の学校を創った米山梅吉先生です。

ドーラ・スカーンメーカー先生は、1874年（明治7年）10月に来日し、その年の11月16日に女子小学校を開校しました。学校といっても、民家の一室を使っただけの学校でした。生徒はわずか7人でした。

米山梅吉先生は、1937年（昭和12年）、当時の青山学院院長の要請を受けて、小学校創設を引き受けました。学校創立のための費用は、全てご自身の私財を用いて、本校の前身、緑丘小学校を開校しました。

スカーンメーカー先生の精神は、「挑戦」だったと、私は思っています。明治7年といえば、その前年の明治6年に、キリスト教禁止令が廃止されたばかりでした。さらに、廃刀令が出されたのは明治9年ですから、刀を差している人が普通にいた時代でした。そんな時に、若干23歳の宣教師は、極東の小さな国の幼い女子のために自分の力を使おうと、単身日本に渡ってきました。何が起ころうか分からない国へ、その挑戦精神に驚かされます。

米山先生の精神も、「挑戦」だったと思います。昭和11年に2・26事件が起こり、軍部が大きな力を持ちました。そんな時に、銀行家として名を成し、また、アメリカからロータリークラブを日本に導入したほどの実績を持つ米山先生が、あえて軍部の方針に逆らうような、キリスト教信仰にもとづく教育をする小学校を創りました。子どもたちのために、軍部をも恐れずに進んだ、その挑戦精神に頭が下がります。

### ○隣人を自分のように愛しなさい 5つのおやくそく

二人の建学者の「挑戦」を支えたのは、「隣人愛」でした。本校の児童手帳の最初のページに、「隣人を自分のように愛しなさい」というキリストの言葉が書かれています。スクーンメーカー先生も米山先生も、子どもたちを「隣人」と受け止め、自分のように大切にしようと、危険を顧みずに学校を創りました。キリストが説く「隣人愛」を、自ら実践しました。

この「隣人を自分のように愛しなさい」を具体的な行動に移す方法が、本校で長く大切にしてきた「5つのおやくそく」です。「しんせつにします」「しょうじきにします」「れいぎたたくします」「よくかんがえてします」「じぶんのことはじぶんでします」この5つは、「隣人を自分のように愛しなさい」をするにはどうすればいいのかを、1年生にも分かる言葉で表しています。

本校の子どもたちは、どの子も、この「5つのおやくそく」を覚えています。6年間かけて、この5つの事が、いつでもどこでも誰に対してもできるように、多くの経験を積んでいきます。

また、「隣人」とはどういう意味か、それを6年間かけて学びます。最初は、「隣人」は身近な人のことと捉えます。それが、学年が進み、学びが積み重なっていくと、今日の前にはいない人のことまで、「隣人」と考えられるようになっていきます。スクーンメーカー先生が、太平洋を越えた遥か遠くの国の子どもたちを「隣人」と考えたこと、米山先生が、まだ見ぬ子どもたちを「隣人」と考えたこと、本校の子どもたちは、それを手本に学んでいます。

二人の建学者の精神は、長い時代を経ても、今の子どもたちに受け継がれています。

### ○賜物 あなたの力を生かす 生かせる学校

本校では、しばしば「神から与えられた賜物を生かす」という言い方をします。「賜物」って何でしょう。

私たちは、それを、神から与えられたその人の持つ力、と考えます。自分の持つ力を他の人のために使うこと、それが「神から与えられた賜物を生かす」ことです。自分の持って生まれた力や、努力して得た力は、他の人、特に困っている人のために使おう、私たちはそういう思いで、日々子どもたちに向き合っています。

本校は、それぞれのお子様のかげがえのない「賜物」を、6年間でおこなわれる多種多様な活動を通して、伸ばし、生かしていきます。それぞれのお子様の賜物を生かせる学校です。